

イザヤ書 7章(2024年12月8日の宣教箇所)を理解するための補足資料

紀元前 733 年、シリア・エフライフ戦争が起こる。これは北イスラエル(首都サマリア)とアラム(首都ダマスコ)が南ユダ(首都エルサレム)に攻めた戦争。

背景を説明する。当時、さらに北部のアッシリア(首都ニネベ)の勢力が強大となり、世界制覇を目指したため、アラムが周辺の小国と同盟を結び、反アッシリア連合を作ろうとした。しかし南ユダは拒否。当時の南ユダ王アハズはアッシリアに従属することによって国の独立を保とうと考えていた。そのため、アラムと北イスラエルはアッシリアが攻めてきた時に南の脅威となりかねない南ユダからアハズ王を退位させ、自分たちに従う新たな王を立てようと目論んで仕掛けた。これがイザヤ書 7章の状況。

余談だが、アラムと北イスラエルの連合軍が攻めてきた時、南ユダのアハズは預言者イザヤの制止を聞かず、アッシリアに使者と貢物を贈り、アラムと北イスラエルを背後から攻めさせ、これがきっかけで北イスラエルは滅亡する。同時に、南ユダ王国は以後、アッシリアに従属し、莫大な貢物を要求されていく。

